

平成30年度 学校関係者評価結果報告書

学校名	成田市立遠山小学校
-----	-----------

1 学校教育目標

育て駒っ子 かしく やさしく 健やかに
～ふるさとを愛し 未来をたくましく切り拓く～

学校関係者評価委員

2 本年度の重点化された具体的な目標

①確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、基礎学力の向上を図る。 「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、問題解決型の学習を充実させ、習得・活用・探求という学習サイクルの確立を目指す。 学校林「駒の森」を活用した環境教育を行う。
②豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 「考え、議論する道徳」を意識した指導方法の工夫改善を図る。 全教育活動をととして「差別をしない、差別を赦さない」という理念を持った児童を育てる。 学校行事などの集団活動を通して、協力し合い、自ら進んでより良い学校生活を築こうとする態度を育成する。
③健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態を把握し、体育の授業及び日常生活における運動実践の充実に努める。
④キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 全ての教育活動をキャリア発達の視点で関連付け、キャリア発達を支援する。
⑤グローバル化に対応した教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 成田市小中学校英語科指導基準に基づいた英語教育を充実する。
⑥地域と共に歩む学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 学校だより・学年だよりの発行や学校ホームページの随時更新により、情報発信に努める。
⑦安全安心な学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 防災教育を充実し、「自分の身は自分で守る」という防災意識の定着を図る。
⑧特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 本人・保護者の立場に寄り添いながら、合理的配慮に関する共通理解を構築していく。
⑨教職員の働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> 校内行事等のスリム化を図り、業務の総量を減らすことで児童に向き合える時間を創出していく。

藤崎 謹治
伊東 康行
高仲 幸代
窺 恭子
神崎 智子

3 自己評価結果に対する学校関係者の評価・意見等

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策	学校関係者評価	
					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
学校運営 教育課程	保：児童は学校が楽しいと感じているか	保護者の100%から「適切である」との支持を得た。	A	「学校が楽しいか」という設問に対する肯定的評価が、児童、保護者ともに100%であった。その他の学校全般に関する設問に対しても、保護者からの肯定的評価がほぼ90%以上と高い評価をいただいている。しかし、学校行事のあり方や授業改善など取り組むべき事項は多々あると考える。今後も不断の努力を行い、保護者や地域の方々のニーズに応えていきたい。	A	A
	保：行事の時期や内容は、学校や児童の実態を考慮して実施されているか。	保護者の94%から「適切である」との支持を得た。	A			
	児：遠山小は、明るく楽しい学校だと思いますか。	児童の100%から「適切である」との支持を得た。	A			
	職：学校行事は適切に行われていると共に充実しているか。	教員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A			
学校関係者による 意見等	<ul style="list-style-type: none"> 全ての児童が学校を楽しんでいるのは素晴らしいと思います。先生方の努力のおかげだと思います。この結果を維持できるよう期待します。 ほぼ全ての人の評価が肯定的評価であり、遠山小の雰囲気の良いと感じられます。 学校を楽しんで100%の児童が感じているのは大変素晴らしいことです。これからも継続して児童のことを考えていってほしいと思います。 					
学習指導	保：授業はきめ細かい学習指導に努めているか。	保護者の95%から「適切である」との支持を得た。	A	「担任の授業の教え方」についての高評価に甘えることなく「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、授業改善を行っていく必要がある。次年度は、週当たりの時数が1時間増となり、総合的な学習の時間が週2時間となる。これを機会に、学校林「駒の森」を中心とした環境教育にも力を入れ、特色ある学校づくりをしていきたい。	A	A
	保：学習に進んで取り組むことのできる子に育てているか。	保護者の84%から「適切である」との支持を得た。	B			
	児：担任の先生の教え方はわかりやすくて楽しいか。	児童の98%から「適切である」との支持を得た。	A			
	職：毎時間学習問題を児童に提示しているか。	教員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A			
	職：児童の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を行っているか。	教員の86%が「十分」「概ね十分」と考えている。	B			
学校関係者による 意見等	<ul style="list-style-type: none"> 学ぶことの楽しさを小学校の時から体験しているのはとても良いことだと思う。 学習に興味を持ち進んで取り組めるようにするのは難しいと思いますが、改善していくよう努力することを望みます。 授業を見せていただくとの学年もきちんと先生の話聞く姿勢ができていてとても素晴らしいと思います。 					
生徒指導	保：児童が困っていたり、悩んでいたときは、先生方が親身になって対応してくれるか。	保護者の98%から「適切である」との支持を得た。	A	保護者や児童から高評価をもらっているが、まだまだ児童からの相談に十分耳を傾けることができていない例もある。一人一人の立場や考え方をよく理解し、公平な姿勢で教育相談に取り組めるよう研修を充実していきたい。	A	A
	児：担任の先生は、休み時間に一緒に遊んだり、おしゃべりをしてくれたりするか。	児童の89%から「適切である」との支持を得た。	B			
	児：担任の先生は、困った時にいっしょけんめい相談にのってくれるか。	児童の96%から「適切である」との支持を得た。	A			
	職：基本的な生活習慣を身に付けさせるための工夫がなされているか。	保護者の78%から「適切である」との支持を得た。	B			
	職：児童のことで職員が共通理解し、全体で取り組む体制が整備されているか。	教員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A			
学校関係者による 意見等	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣は家庭で身に付けることだと思いますが、家庭の事情に合わせて考えて、適切な指導をして欲しいです。 全ての児童に対応し、各家庭に合わせた働きかけをするのはとても大変なことだと思います。難しいことも多いと思いますが、引き続き頑張ってくださいと思います。 					
道徳 人権教育	保：相手の立場を考え、協力する子に育てていると思うか。	保護者の89%から「適切である」との支持を得た。	B	道徳を中心に「豊かな心」を育てることに取り組んできたが、まだまだ十分ではないとの評価であった。今後も「考え議論する道徳」を目指すとともに、環境教育等を通して自然(命)の大切さを実感できるような実践を積み重ねていきたい。	A	A
	保：自然を愛し、命を大切に育てていると思うか。	保護者の88%から「適切である」との支持を得た。	B			
	職：「思いやりのある豊かな心」を育てているか。	教員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A			
学校関係者による 意見等	<ul style="list-style-type: none"> 今年から評価の対象になった道徳の授業について、児童アンケートの結果を見て、中学年と他の学年の感じ方に差があるのが気になりました。 議論する、意見をぶつけ合う道徳指導をお願いします。授業公開は良かったです。 秋の学校公開日の授業が印象に残っています。今後も色々な取組を続けていって欲しいと思います。 					
保健 安全管理	保：安全面での配慮がなされており、安心して生活できる学校となっているか。	保護者の98%から「適切である」との支持を得た。	A	保護者から、運動に関してまだ十分ではないという評価をいただいている。外遊びを推奨するとともに遊・友スポーツランキングに次年度も挑戦させるなどして運動に親しませていく。	A	A
	保：運動に親しみ、進んで体を鍛える子に育てているか。	保護者の78%から「適切である」との支持を得た。	B			
	職：「安全・安心な学校づくり」をすすめているか。	教員の90%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A			
学校関係者による 意見等	<ul style="list-style-type: none"> 安全・安心な学校であるという評価が高く、今後も継続してもらいたい。 どうしても運動が苦手な子や室内遊びが好きな子もいると思います。特に低学年は遊びの延長で楽しく運動できたらいいと思います。 					
保護者・地域との 関わり	保：学校便りや学校公開、行事への参加等で学校の様子を知ることができる。	保護者の98%から「適切である」との支持を得た。	A	学校からの情報発信については、今後も適切に行っていく。一部の保護者からは「遠山小は親が参加する行事が多い」という指摘を得ている。スクラップ&ビルドの姿勢で行事等の見直しを図り、学校、保護者双方の負担が減るよう努力する必要がある。	A	A
	保：PTAの行事や活動などにより、保護者と学校が連携した取組が見られるか。	保護者の98%から「適切である」との支持を得た。	A			
	職：「地域とともに歩む学校づくり」をすすめているか。	教員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A			
学校関係者による 意見等	<ul style="list-style-type: none"> 土曜日開催の行事についてのアンケートは保護者の意見も多く、学校側もいろいろ検討することができ良いものだったと思います。 学校行事とPTA行事を分けて考え、学校行事を平日にしていきたいという考えに賛成である。保護者の方々と話し合いを持ちながら、進めてほしいと思う。 土曜日の行事を減らすことで、職員の子育て支援の一助にしたいです。 広報の発行やPTA行事の整理はいろいろな考え方があり、簡単には進まない課題だと思います。でも、議題を提示し継続して話し合っていくことが大切だと思います。 PTA広報の記事内容の検討をさらにお願したい。記事にはPTAの活動内容を多く盛り込んでいただきたい。 					

A(適切な評価である)、B(ほぼ適切な評価である)、C(やや不適切な評価である)、D(不適切な評価である)

4 次期の重点目標と改善のための方策

<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、教員一人一人の指導力を高め「わかる授業」を提供できるよう努める必要がある。特にICT機器の活用を進め、視覚に訴える授業を推進していきたい。 道徳の教科化に伴い、「考え議論する道徳」の在り方を研修を今後も深めていく必要がある。また、プログラミング教育の導入に伴う教職員研修を充実させることが必要である。 運動に関しては保護者アンケートから、まだ十分ではないという評価をいただいている。外遊びを推奨するとともに遊・友スポーツランキングに挑戦させるなどして運動に親しませていきたい。 保護者や地域から温かい支援を受けている。この良好な環境に甘んずることなく一人一人の児童または家庭に寄り添った教育を継続していく。 行事の精選を進め、余裕のある教育課程を編成していく必要がある。保護者への情報発信を適切に行い、理解を求めていくことを大切にしたい。
--